

SHIN CLUB 223

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



西荻市庭 - Nishiogi Ichiba - (YSディセンダンツビルⅡ) 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

西荻窪

中央線の高円寺から吉祥寺の各駅周辺は、住宅街が広がる中それぞれ個性的な発展を遂げてきました。高円寺といえば、阿波踊り、そして小さな飲食店やライブハウスが多い若者の街。阿佐ヶ谷は大きなケヤキ並木が延び、夏の七夕祭り、秋のジャズイベントでにぎわい、作家や芸術家に移り住んだ街として知られています。荻窪は近衛文麿の荻外荘に代表されるように多くの文化人の別荘として名を馳せ、今でもゆったりとした雰囲気が残るところです。そして吉祥寺は、南に井の頭公園を擁し、北側には大型商業施設が展開されて、都心へのアクセスもいことから、雑誌の「住みたい街ランキング」のNo.1に何度も名前が挙がっている街です。

そんな中、西荻窪です。通称「西荻(にしおぎ)」、快速は止まりません。荻窪と吉祥寺の流れを受けて、特に商店街が大きく発展しているわけでもありません。むしろ駅周辺にある昔からの個人商店がそのままご商売を続けているという感じです。そんなに大儲けしたいわけではない、でもお客さんがいるから続けなくちゃ。40年以上前から有機食材を扱っている「ほびっと村」、ケーキとレストランの「こけし屋」、ジャズライブハウス「アケタの店」…、そんな心意気を感じられます。駅の南側ではガード下の飲み屋に多国籍料理の店も加わり、今や解放区といった庶民的な活気が広がっています。自分のペースで暮らしを楽しむ人たちの街、それが「西荻」です。

写真はこの度、その西荻窪駅北側の商店街の中に建ち上がったテナントビルです。建て主は、阿佐ヶ谷で15年以上にわたって地域活性化の活動をされてきた、(有)ジー・エヌ・エヌ/GNN代表取締役の東島信明様。NPO法人「知の市庭」の代表も務めています。東島様に電話でお話を伺いました。

「平成12年、阿佐ヶ谷で小さなテナントビルを建て、1階にフレンチレス

トラン、2階は貸し料理スタジオ、3-4階にNPO法人を入れ、5階は自分たちの折々の活動スペースとして、街の活性化を図ってきました。

『市庭』という言葉は、練馬の著名な歴史学者、網野義彦氏の著書『農民は百姓にあらざ』にある『市場は市庭である』という言葉から着想を得ています。『市庭』は神社・仏閣にあったり、博多のような中洲だったところに集まっていたもので、この現代においてもそのようなモノとモノを交換する場、コミュニケーションが生まれる場が必要だと感じたのです。人は自ら進んで生涯勉強し、自己向上に努め、自己実現を図りたい願望を持った存在です。そのことを真摯に受けとめ、自分達の組織を『知の市庭』と名付けて、自己学習の場を提供しています。

阿佐ヶ谷での活動が街の活性化につながったことから、さらに杉並でもう1か所拠点を作りたいと不動産を探していたところ、西荻のこの場所に出会い、立地の良さに惹かれて購入しました。

阿佐ヶ谷のビル建設でお世話になった、(株)TK2(ティケイスクエア)の楠元孝夫氏に企画、設計を依頼し、1階はイタリアン・レストラン、2階には美容院、3階には面接の上、地元のNPO・シェアリングカフェ「KOKO PLUS」が入り、4階はこれまで一緒にやってきた10人の仲間たちと作った『西荻BASE』という組織が利用するスペースとしました。

今回、施工を辰にお願いしたのは、10年以上うちのNPOの経営レポートを作成してくれている吉田健司氏が、辰の監査役もされているということから。地主さんもとて素晴らしい方で、『市庭』を通しての新たなご縁に感謝しながら、西荻での皆さんの交流の場を作っていきたいですね」と東島様。

『西荻市庭』の管理は息子の弘明様が行うとのこと、西荻にありそうでなかった若い世代の方たちが自由に利用できる場所となりそうです。

西荻市庭 - Nishiogi Ichiba - (YS ディセンダンツビルⅡ)

オドリバの上の商店街

それぞれの街にはそれぞれの振る舞いがあり、西荻窪という街にもまた独特な街の振る舞いがあった。現地調査の際に歩き回った西荻の商店街には様々な発見があり、活気のある八百屋さん、老舗のレトロな喫茶店、奥まったアパートの2階の小さな食堂…、西荻窪の街は1階だけで構成されているのではなく、人の家に入り込んでいくような感覚で、立体的な迷路のように構成されていることに気付かされた。

そのような街の振る舞いを取り入れ、外部階段から建物を登っていき、踊り場ごとにお店があるような建物を設計した。それにより階層によるテナントの価値の低下をふせぎながら、立体的な商店街が創り出されている。

建物は駅から続くメインの商店街通りと、八百屋のある路地の市場ような通りの2面に面している。建て主の希望により、この外部階段がお祭りやイベントの際にコーラス隊や楽器の演奏の舞台にもなるため、まさに商店街同様、祝祭の空間をも宿している。

八百屋側の通りは、建物の建設にあたり2.7mも敷地境界をセットバックしており、細い路地が大きく開かれる瞬間に立ち会うことになった。

敷地の南側の老舗の八百屋は朝から活気にあふれている。1階のレストランをセットバックした八百屋側に開くことで、レストランと八百屋に挟まれた「マルシェ」のような通りを作り出した。車が通れない私道であるため、木製建具を開け放しテーブルや椅子が通りにあふれ出すと、駅から来る人たちはそれぞれの店で買い物したり、食事をしたりと、この通り全体で街の人々を迎え入れる形が浮かんでくる。

店内からは野菜や果物の鮮やかな色彩を眺められ、八百屋を借景にするという面白い風景が生まれている。料理人が「新鮮な食材を向かいの八百屋さんから買ってくる。店が単体ではなく、街と手を取り合って食事を出している。」と話していた時に、設計者の想像を超えて、街は呼吸を始めているのだと感銘した。

「経済合理性ではなく、商店街や街の人々にとって喜ばれる建築を考えて欲しい」というのは、建て主である東島氏の設計当初の発言である。その心意気に大いに共感し、西荻窪という街に寄り添った建築を提案している。

(横井創馬氏 談)



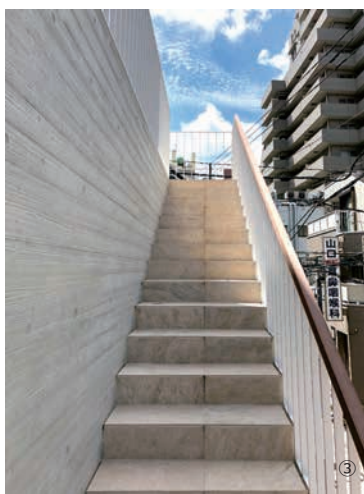
所在地: 杉並区西荻北 3-21-5

構造: RC造 規模: 地上4階 用途: 店舗

設計・監理: TK² (ティケイスクエア) (設計担当: 横井創馬)

施工担当: 佐々木・小林

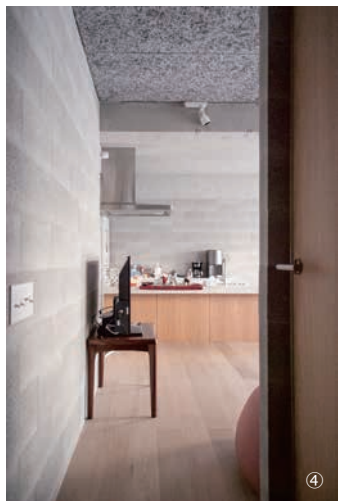
竣工: 2018年4月 撮影: アック東京



①東側に抜ける前面道路「仲良し小道」②3階バルコニーより前面道路の八百屋を臨む③2階から3階への外階段④1階レストランから前面道路を臨む。八百屋の自然で鮮やかな野菜の色が目飛び込んでくる。木製建具はすべて開け放すことができる⑤1階レストランの梁を支える柱⑥3階シェアリングスタイルカフェ「KOKO PLUS」。入口はバルコニーとEVの2アクセスが可能。入店料: 1時間 1ドリンク ¥500~、無料サービス: フリードリンク、Wifi、PC貸し出し。そのほかイベントも開催している⑦4階は「西荻BASE」のミーティング、イベントスペース。イスやテーブルも用意されている⑧1階の外階段の入口。外壁は表情のあるコンクリート打ち放し

御殿山マンションリフォーム

前ページで紹介した「西荻市庭」の実施設計担当、横井創馬氏の設計により昨年施工させていただいたマンションリフォームも今回ご紹介します。マンションリフォームに対する大胆な設計手法が、ユニークで現実的な解決を生み出している実験的な住宅です。



庭園と住まうマンションリノベ

マンションの上階では、屋外を感じることも少なければ、戸建てのように窓の向こうに庭を持つこともできない。当たり前のことであるが、住宅が積層せざるを得ない都会ならではの問題ともいえるだろう。そんなマンションの一室を、息子夫婦や孫、友人たちが集まる大らかな受け皿として改修することを依頼された。

部屋は北西向きの角部屋で、20mもの使われていなかった細長いバルコニーに囲われていた。そのバルコニー全てを庭園と見立て、軽量土やデッキを敷き詰め、季節ごとに色彩や葉ぶりを変えるさまざまな植物を植えることにより、窓の向こうにまるで庭付き一戸建てに住んでいるかのような風景を作り出している。樹木が生い茂る庭は、外からの視線をさえぎりながらも、自動散水によって手軽に子供たちがブルーベリーやレモンを育てられるような場所になっている。

庭を臨むための窓サッシは、複合フローリングの厚突木材で包み込むことにより、木製サッシから庭を楽しむような風景を作り出している。当初は断熱性と対結露性能を向上させるためのアイデアであったが、家具のような木製の十字窓がリズムカルに連続したしつらえは、内と外の境界線を柔らかく近づけている。

部屋を緩やかに分節する壁は、屋内然とした乾式壁ではなく、屋外で使うようなコンクリートブロックの壁を使用しており、まるで庭園の一部が室内へと入り込んできたような様相を作り出している。このような粗野な素材でも表面をスタッフや学生たちと何日もやすり掛けをしたことにより、表面は絹のような手触りになって、住まう人に寄り添うような素材へと変化している。また、マンションというのは部屋同士の距離が近いものだが、壁に重たい素材を選ぶことで音がたやすく伝播せず、1 t 近い重量感がお互いの部屋の距離感を遠ざけている。

屋外の庭園はもちろんの事、室内のしつらえもいわゆるマンションの記号を丁寧に取り除いていった。そうしてできた空間は、まるで庭を臨む別荘のような空間となり、人の家にお邪魔するというより、みんなの家に訪れるというような空気感を持った住宅となった。

(横井創馬氏 談)

コンクリートブロックを磨いてここまでツルツルに肌触り良くなるとは思いませんでした。鉄骨下地のキッチンの天板にはベルギー産の特殊なモルタルを使用、部屋の雰囲気合ったいいテクスチャーに仕上がりました。(施工担当 齋藤)

①広々としたリビングダイニングが完成。クリスタルカラーのオークの床、コンクリートブロックの壁、木製サッシに見立てた窓枠が個性的な空間を形づくる②バルコニーは長さ20mの庭園に。自動散水装置のお蔭で植栽も順調に成長③改修前のスケルトン状態④玄関からLDKを臨む。コンクリートブロックの壁、天井の木毛セメント板の素材感が際立つ⑤キッチンの足元は少し低くなっており、窓側に張り出したカウンターは使い勝手がいい。新たにカーテンボックスを設置、統一感を持たせている。リビングと寝室の間の木製扉は梁に合わせ2段構えに製作⑥寝室側から臨んだLDK。ソファの後方の壁の裏側に洗面所、バスルーム。既存より65mm間口を広げ、上部に設けたルーバーで換気も改善された⑦寝室にオープンで圧迫感のないウォークインクローゼットを設置した

横井創馬

1983年 東京生まれ
2007年 日本大学理工学部建築学科卒業
2007-2008年 坂茂建築設計ヨーロッパ勤務
2008-2010年 SANAA 勤務
2012年 - SEKAI 共同設立
2018年 横井創馬建築設計事務所設立

用途：共同住宅

構造：RC造
地上2階/地上5階
延床面積：59.765㎡
竣工：1984年(築34年)
リノベーション：2017年11月
施工担当：齋藤
撮影：横井創馬建築設計事務所

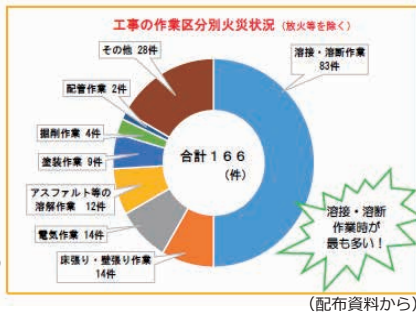
渋谷建防連 視察研修会 2018年9月11,12日

「渋谷建防連」とは、渋谷建築防災推進連絡協議会の略です。年に数回、会員である建設会社と消防署が会議や講習を行い、工事現場での事故の発生予防や、災害に対して円滑な対策を連携して行えるような機会を持つことを目的としています。9月の視察研修会に副社長の岩本が参加、その一部を報告をさせていただきます。

9月11、12日に行われた研修会では、袖山みゆき渋谷消防署予防課長の講演で以下のような報告が行われました。

1. 平成30年上半年期の渋谷消防署管内の火災状況

火災件数は59件と、昨年より6件減少したが、都内ではワースト4に。主な出火原因の、第1位は「たばこ」で14件、第2位は「ガステーブル」で5件、第3位は「コンセント」で4件となっている。「たばこ」による火災は建物内では0だが、建物外で完全に火が消えていない吸い殻の不適切などへの投げ捨てによる火災が目立っている。また、電気関係を合わせると「たばこ」を上回っており、マルチタップへの過電流によるものなど、電気機器を使用する際には、機器自体の容量を確認し、繋げ過ぎに注意することが必要である。



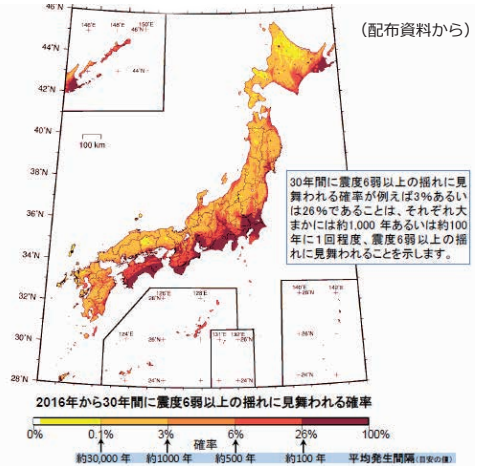
2. 多摩市新築工事現場の火災と工事現場火災の予防について

7月26日(木)におきた多摩市唐木田のオフィスビル建設工事現場の火災では、溶接作業中の火花が断熱材のウレタンに燃え移り、大規模火災に発展、5人の死者を出している。

工事現場での各種作業に対して、改めて適切な火災予防措置を講じる必要性と各遵守事項を確認いただきたい。工事現場の主な出火原因は、作業中が第1位「溶接・溶断作業」、第2位「電機作業」、作業関係以外では第1位「放火」、第2位「たばこ」となっており、平成30年7月27日現在、すでに15件の火災が発生している。

3. 地震について

全国地震動予測地図 2018年度版が6月26日公表された。これは、今後30年以内に震度6以上の大地震に遭う確率を示すものであり、昨年と同じく首都直下型地震が想定される関東地方や南海トラフ地震が予想される太平洋沿岸で、最高レベルの「26~100%」となっている。



日本中、いつでもどこで地震がおきてもおかしくないという状況に変わりはありません。9月6日に発生した北海道胆振東部地震、さらにそれに続く北海道全域における大規模停電で、私たちは電力需給のバランスがくずれる事態を目の当たりにしました。非常時の電源確保や、避難に影響する非常灯の点検など具体的なことはもとより、停電による企業の法的責任など、危機管理をもう一度見直す機会となりました。

(報告：岩本健寿)

円錐会の秋のイベント「on going 04 集合と共同から建築を考える」のお知らせ

横浜国立大学建築系OBで構成される「円錐会」の企画運営によるトークセッションが開催されます。弊社はこれまで建築を考えるイベントへの協賛に参加させていただいています。今回は「集合と共同」に焦点を当てたシンポジウム。ご興味のある方はぜひご参加ください。

日時：2018年10月14日(日)
 場所：HYPERMIX(江東区門前仲町1-13-12 設計：北山恒+工藤徹/architectureWORKSHOP)
 登壇者：山本理頭、高橋一平、金野千恵 モデレーター：橋本純
 参加費：円錐会会員(1000円)、学生(要学生証提示1000円)、一般(2000円)
 (レクチャー参加費+1ドリンクチケット+懇親会込み) 定員：100名

申込方法：メールの件名を「トークセッション参加」とし、①氏名②所属(円錐会会員/一般/学生)③メールアドレス④当日の連絡先⑤HYPERMIX見学会(先着20名)と懇親会参加希望の有無を記入の上、10月13日(金)までに yakuin-all@unicorn-support.info へメールをお送りください。

04 集合と共同から建築を考える

山本理頭 高橋一平 金野千恵 橋本純

2018年10月14日 16:00

HYPERMIX 門前仲町

「(仮称)CUBE 西麻布新築工事」 地鎮祭

2018年9月8日



西麻布交差点近くの店舗ビルです。工事を機に近隣環境も好転しました。

構造：RC造
 規模：地上5階
 用途：店舗
 設計・監理：パウ・ビルト
 完成予定：2019年5月

「610(ろくいちまる) 住宅新築工事」 地鎮祭

2018年9月25日



千葉市にて、専用住宅の工事が始まります。

構造：RC造
 規模：地上3階
 用途：専用住宅
 設計・監理：アーチプラン
 完成予定：2019年6月

編集後記

・モバイルバッテリーもハイブリッド車もあるのに、スマホのケーブルを忘れただけで情報難民。山の中には携帯ショップもなく、手も足も出ないとはこのこと、それもまたありがた、の休日でした。

(株)辰通信 Vol.223 発行日 2018年10月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。 http://www.esna.co.jp/shinclub スマホはこちらから →

